



▲今回の上映作品「スパイス・カレー」のラストシーン練習風景

斜里町公演

会場満席に部員は笑顔

スパイス・カレー
急逝した祖母の遺品から、秘密のレシピ集が見つかった。初七日法要の前日、高校生の絵里香は、お婆ちゃんのスパイス・カレーを作り始める。

演劇部の1日放課後、演劇部の活動は稽古用の舞台の設営から始まる。部員総出で大道具の組み立てをしなが、小道具や音響などの準備をしていく。大道具の準備に苦戦するも、部員同士の声掛けや仲の良さもあり、無

事舞台は完成した。準備が終わるとすぐに発声練習を開始する。発声練習では、高い音から低い音を一息で出しきる練習や五十音・濁音を通りの良の練習を通して人前で大きな声を出すことへの抵抗をなくしていく。抗を捨てて発声すること、とに集中するのが大切」と部員は話す。発声練習後、ミーティングでその日の予定を確認するとすぐに稽古が始まる。稽古では新井先生の鋭い指摘の元、演出や台詞を改善していく。特に面白さが求められる場面では、お客さんを笑わせるために試行錯誤を繰り返している。先生の指示をすぐに行い、時にアイデアを出し合う様子から先生と部員の信頼関係が伺えた。

演劇部 5年連続全道出場

本校演劇部の全道大会出場が決定した。そのことを受け、報道局は公演直前の演劇部取材、支部大会終了後、部長阿部紗己さん(2D)にインタビューした。



発行所
網走南ヶ丘高校
新聞局
発行責任者
我妻孝介

開校100周年記念
報道局特別連載企画

南 高 あの前輩に学ぶ



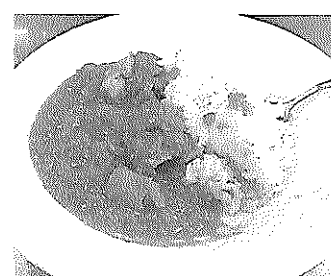
(チエアスキー選手)

第3回 ③ 「努力」成長は絶対 経験と挑戦の大切さ語る

チエアスキーの中でも狩野さんが取り組む種目は、時速100キロを超す場面もあるなど、まさしく危険と隣り合わせである。世界の大舞台、命の危険という二重の緊張に狩野さんはどう立ち向かっているのか。

狩野さん曰く「その時」まで最大の努力をすること、そして「良いイメージ」だけでなく、悪いイメージも想像することだ。という。特に後者に關しては「大失敗した時のことを考えたうえで『どうすれば回避できるのか』『失敗したとき全てを受け入れる

今回の公演を振り返って 今回の公演で上演された「スパイス・カレー」が5作品目だという阿部さん。部長として稽古の進行に加えて部員の演技指導などをこなしたが、阿部さんは1年生の佐藤芽依さんが通常2・3年生が担当する「舞台監督」をしたことに注目している。「舞台監督」とは主にスケジュール管理をする役目で、台本の読み合わせの日時や大道具・小道具の作成期限などを大会の日から逆算し計画を立てており「私も昨年は『舞台監督』だったが、大変苦労したのを覚えている。彼女は今年よくがんばってくれた」と役目を果たした佐藤さんを称賛した。阿部さんは斜里町



▲演劇部手作りカレー

「面白い作品を作る義務」がある
新たな挑戦へ 部長阿部紗己さん

を借りて1回通し練習していたが、今年は学期間休業の前に公演がありそれが出来なかった。公演の3日前くらいに通し練習を終わらせる計画だったが、結局終わらなかった」と苦勞を語った。時間がない中でも演技の感覚をつかむことを重視しており、今回は「カレー」が重要な意味を持つ作品であったため「夏休みに実際にカレーを作った食べた。どの程度炒めるのか、おいが出始めるのはいつごろなのか。炒めるときの重さの感覚、玉ねぎのみじん切り、ニンジンすりおろし全部やってみて感覚をつかんでいく」とどのようにして感覚をつかむのかを教えてくれた。阿部さんにとって作品を上映することは「見えてくれた人の心を動かさなくてはならず、楽しい作品を作る義務、面白い作品を作る義務が発生する。そのため楽しいだけでは済まない」とのこと。

今後の目標は 今後挑戦したいことを尋ねると「他のオホーツク管内にある演劇部さんと合同公演」と「南高の体育館のステージで、小さいセットで芝居」をしてみたいと話す。来年の南高祭で上演したいという願望を持っている。それらの目標を達成するために部員数を増やすことが重要であり、演劇部では現在も部員を募集している。「途中入部でも、知識がなくても全然大丈夫。ぜひ気軽に立ち寄ってほしい」と明かした。演劇部は3階310教室で活動中だ。



▲阿部紗己さん(2D)